

令和7年度 褥瘡対策チーム PDCAサイクル

1. 現状把握(令和6年度データより)

- ・褥瘡発生率:1.3%、推定発生率:2.1%(前年度より増加)
- ・危険因子では基本的動作能力低下、皮膚湿潤が多い
- ・医療関連機器褥瘡(MDRPU)発生患者数:57人(前年度より増加)



2. 問題点

- ・高齢者の脆弱な皮膚に対する褥瘡予防介入が後手になっている
- ・発汗・失禁等皮膚湿潤環境への対策が不十分
- ・MDRPUに対し、使用開始時の予防的介入、装着後の継続的観察が不十分

3. 重点課題(令和7年度)

- ・皮膚湿潤対策(清潔・排泄・スキンケア)の強化
- ・MDRPU予防の体系的実施 ・多職種による予防視点での介入強化

4. 目標設定

- ・褥瘡発生率前年度1.3%、推定発生率前年度2.1%より低減する。
- ・MDRPU発生患者数を前年度より減少させる

5. 計画(Plan)

- ・入院時および状態変化時の褥瘡リスク評価の確実な実施
- ・湿潤リスク患者に対するケアの見直し、スキンケア物品の見直し
- ・体圧分散寝具・エアマットレスの適正選択と使用状況の確認
- ・今年度は肺塞栓予防に関する医療機器(弾性ストッキング等)の適正使用の定着、観察を重点的に行う。

Plan

- ・褥瘡対策委員会(偶数月)、褥瘡対策チーム会(月1回)、毎週の褥瘡回診を計画的に実施し、院内の褥瘡予防活動を推進する
- 7. 入院時および状態変化時の褥瘡リスク評価を確実に実施し、ハイリスク患者への早期介入を行う
- ・皮膚湿潤リスク患者に対し、ベッド環境の見直し、スキンケア、皮膚保護材の適正使用について周知・指導を行う
- ・マイクロクライメット管理の重要性について、「褥瘡たより」や研修を通じて啓発を行う
- ・弾性ストッキング等の医療関連機器使用患者に対し、使用開始時からの予防的介入と装着部位の観察を重点的に行う
- ・褥瘡に関する全体研修を年1回実施し、職員の褥瘡予防意識と知識の向上を図る

Do



- ・引き続き褥瘡発生率低減を目標とし、予防的介入の継続と質向上を図る。
- ・湿潤が原因の褥瘡減少の取り組みを継続し、排泄ケア・スキンケア・病床環境調整を行う。
- ・尾骨部褥瘡増加を踏まえ、ポジショニングおよびずれ予防に関する介入を強化する。
- ・MDRPU予防の実践の強化を検討する。(装着前評価・予防的被覆材の貼付)
- ・観察強化により早期発見につながったため、軽微な皮膚変化を見逃さない観察を継続する。
- ・褥瘡回診、褥瘡対策委員会、全体研修を継続し、多職種連携による予防活動を推進する。

Action

Check

- ・褥瘡発生率は1.1%、推定発生率は1.8%となり、前年度(1.3%、2.1%)より低下した。
- ・危険因子では湿潤項目が減少し、臀部褥瘡も減少しており、マイクロクライメット管理の取り組みは一定の効果があったと考えられる。
- ・一方、尾骨部褥瘡は増加しており、ずれ・圧迫に対する介入が十分ではなかった可能性がある。
- ・MDRPU発生患者数は40人と前年度57人より減少したが、弾性ストッキング等による発生は依然として多かった。
- ・弾性ストッキングのサイズ統一や観察強化により、軽微な段階での発見が増加し、早期対応につながったと考えられる。
- ・身体拘束最小化の取り組みにより、抑制帯のMDRPU発生数は減少した。
- ・褥瘡回診や研修を通じ、多職種による褥瘡予防意識の向上につながった。

